

福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム



福島の  
森と木の  
親子体験  
オンライン教室2021

りんやちょう  
林野庁

# 目 次

1.	主催者挨拶	1
2.	後援者挨拶	2
3.	福島森と木の親子体験オンライン教室 2021 プログラム	5
4.	出演者プロフィール	6
5.	福島森のハカセになろう 資料	9
	1) 放射線ってどんなもの?	9
	2) 福島森、今どうなってるの?	16
6.	森と木に親しもう	28
7.	森めぐみ なめこ収穫	28
	福島のもり 応援隊動画	29

# 主催者挨拶

林野庁 森林整備部長 小坂 善太郎

---

「福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム～福島の森と木の親子体験オンライン教室2021～」に御参加いただきありがとうございます。今回のシンポジウムを通じて、東日本大震災からの復興、とりわけ原発事故の影響を受けた森林・林業の再生について、御参加の皆様のご理解が深まるとともに、福島の森林・林業再生の一助となることを期待しております。

東日本大震災から10年が経過し、多くの方々の御尽力により、インフラの整備も進み復興は着実に進展しておりますが、今なお避難生活を続けている方々も多くおられます。政府の「第2期復興・創生期間」以降における東日本大震災からの復興の基本方針」（令和3年3月9日閣議決定）においては、福島等の森林・林業の再生に向けて、放射性物質モニタリングや各種実証等による知見の収集、放射性物質を含む土壌の流出を防ぐための間伐等の森林整備とその実施に必要な放射性物質対策等を引き続き実施するとしております。また、原木しいたけ等の特用林産物の産地再生に向けた取組を進めることとしており、これからも地域の実情を踏まえ、福島の森林・林業再生に向けた取組を続けることが大切であると考えております。

林野庁では、福島の皆様が森林と共に生きる暮らしを取り戻すことができるよう、復興庁や環境省、福島県と連携した総合的な取組を進めています。この中で、森林内の放射性物質の分布状況の把握や、避難指示解除区域等の林業再開に向けた実証事業などに取り組んでおりますが、そこで得られた成果を多くの方々に正確に知っていただくことは、福島の森林・林業再生のために非常に重要であると考えております。本シンポジウムはそのための情報発信とコミュニケーションの一環として、平成26年度から毎年開催しているものです。

昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会場に集まる形式での開催が難しい状況となり、シンポジウムを初のオンライン形式で開催しましたが、参加者の皆様から「オンラインだからこそ、おしゃべりをしながら親子でリラックスして参加できた」、「夏休みなどに福島に連れて行ってほしいと思った」といった評価をいただきました。

今年度も、昨年度よりさらに楽しんで参加いただけるよう、また、効果的な学びの機会となるよう、様々な工夫をしております。当日のライブ配信だけでなく、動画視聴による事前学習や体験キットによるなめこ栽培・木工クラフトに親子で取り組んでいただくとともに、引き続き福島の森林・林業の再生に御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

# 後援者挨拶

福島県農林水産部次長（森林林業担当） 丹治 俊宏

このたびは、「福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム」に多数御参加をいただき、誠にありがとうございます。

また、主催される林野庁を始め関係者の皆様には、本県の森林・林業の復興・再生に向けた取組について、多大な御支援・御協力を頂いておりますことに対し、改めて御礼申し上げます。

さて、東日本大震災及び原発事故から今年で10年が経過し、森林の再生に向けた取組が着実に進展しているものの、本県の森林・林業を取り巻く環境は、いまだ放射性物質の影響を多大に受けている状況にあります。この間、県といたしましては、森林の放射性物質モニタリング調査や影響低減に向けた各種実証を行うとともに、間伐等の森林整備とその実施のために必要な放射性物質対策により、森林の多面的機能の維持向上を図る「ふくしま森林再生事業」を実施するなど、関係機関と連携して取り組みを進めてまいりました。

また、県産製材品の表面線量調査や県内で生産・採取されるきのこや山菜について放射性物質のモニタリングを実施するなど、消費者の皆様の安心・安全を確保する取組を継続しております。

イベントに参加される皆様には、この機会に福島県の森林について知っていただくとともに、体験を通じて森林の恵みを実感していただきたいと思います。

最後に、引き続き福島県の農林水産物と森林・林業・木材産業に対し、御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。



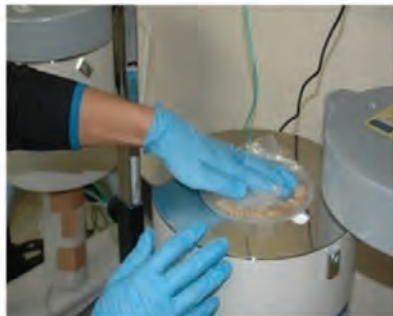
空間線量測定



放射性物質対策



表面線量測定



モニタリング検査



# 後援者挨拶

郡山市長 品川 萬里

「福島森林・林業再生に向けたシンポジウム」の開催にあたり、一言御挨拶申し上げます。

また、主催の林野庁をはじめ関係者の皆様には、本市の森林・林業の復興・再生に向けた取り組みについて、多大なる御支援・御協力を頂いておりますことに対し、厚く御礼申し上げます。

さて、東日本大震災・原発事故の発生から10年が経過し、本市も着実に復興の歩みを進めてまいりましたが、森林・林業を取り巻く状況は、森林整備の停滞や林産物の出荷制限、風評など、依然として原発事故の影響を大きく受けております。

このような中、本市におきましては、林野庁、福島県をはじめとする関係機関・団体等の皆様との緊密な連携のもと、森林の多面的機能の維持向上を図る「ふくしま森林再生事業」により、森林整備や放射性物質対策を推進しております。

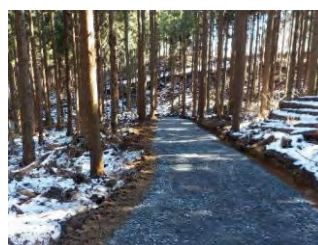
今後におきましても、「誰一人取り残さない持続可能な社会」を目指すSDGsの理念のもと、自然災害や感染症対策に加え、DX（デジタル・トランスフォーメーション）化の推進や脱炭素社会に向けた取り組みなど、市民・事業者・行政が自助・互助（共助）・公助それぞれの役割を果たす「公民協奏（コンチェルト）」により、将来世代に誇れる「課題解決先進都市」を目指してまいりますので、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本シンポジウムが実り多きものとなりますとともに、御参会の皆様の今後益々の御健勝と御多幸を心から御祈念申し上げまして、歓迎の御挨拶といたします。

## 郡山市の森林・林業再生に向けた取組

### ① ふくしま森林再生事業

森林の多面的機能の向上を図るため、間伐などの森林整備と路網整備を一体的に実施しています。



(間伐を実施した森林)

### ② 高篠山森林公園

豊かな自然環境を生かした自然体験活動を行っており、学校や各種団体からの要望に応じて自然体験活動支援を実施しています。



(自然体験活動支援)

# 後援者挨拶

中野区環境部環境課長 波多江 貴代美

このたびは、「福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム」にご参加をいただき、誠にありがとうございます。

都心部に暮らす私たちは、森林から、自然がもつリラックス効果や癒やしを感じる方も多いと思いますが、林業に携わる方のお話では、「都会の人は森林や山を見て、自然がいっぱいと言われますが、私たちにとっては『植えて、育てて、伐採（収穫）する』畑のような感覚です」と伺いました。

木は、地球温暖化の主な原因とされる二酸化炭素を吸収して酸素を供給し、家具や建材などに利用されることで、二酸化炭素を内部に固定し地球温暖化防止に役立ちます。

森林を健全に保つためには、50年から100年先を見据えた森の管理や整備、森林の循環をはかるための、木々のライフサイクルに見合った木材活用が大変重要だと学びました。

森林を持たない中野区では、福島県喜多方市などの森林資源が豊富な自治体と連携し、区民が現地を訪問する「環境交流事業」や、現地の森林整備を支援することで得られるCO<sub>2</sub>吸収量によって、カーボンオフセットを着実にすすめる「中野の森プロジェクト」に取り組んでいます。

また、令和元年10月に「中野区公共建築物等における木材利用推進方針」を定め、区有施設整備における国産材の利用を推進しています。令和2年10月にオープンした「キリンレモンスポーツセンター（中野区立総合体育館）」では、国産の木材（福島県産含む）を活用するとともに、太陽光発電や下水熱エネルギーの活用などにより環境負荷を低減しています。

今回のシンポジウムは、「森や自然を学ぶ」、「木に親しむ」、「森のめぐみを育てる・収穫する・味わう」ことを通じ、福島の魅力を存分に楽しめるプログラムとなっています。ぜひご家族でお楽しみください。



喜多方市「ふれあいパーク喜多の郷」に設置された「中野の森プロジェクト」の看板



福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム  
「福島の森と木の親子体験オンライン教室 2021」

令和3年11月13日（土曜日）14時～15時45分

## プログラム

### 主催者挨拶

#### I. 「福島の森のハカセになろう」

鳥取大学研究推進機構研究基盤センター

助教 北 実さん

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所

震災復興・放射性物質研究拠点長 篠宮佳樹さん

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所

きのこ・森林微生物研究領域 主任研究員 小松雅史さん

#### II. 「森と木に親しもう」

田人林業研究会（福島県いわき市） 緑川平隆さん

田人林業研究会（福島県いわき市） 下條真輝さん

#### III. 「森のめぐみ なめこ収穫」

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所

きのこ・森林微生物研究領域 主任研究員 小松雅史さん

終了

しゅつえんしゃ  
出演者プロフィール

「福島森のハカセになろう」

鳥取大学研究推進機構研究基盤センター

助教

北 実 (きた まこと) さん

◇プロフィール

学生時代は奈良先端科学技術大学院大学で微生物の勉強をしていました。現在は鳥取大学で放射線取扱主任者として放射線、放射性物質の安全管理に携わっています。震災後はきのこ原木の除染方法の調査などに参加してきた他、放射線に関する講演等も行っており、福島県内ではこれまでに50校以上の小中学校でお話しさせていただいています。

●趣味・好きなこと

写真。今年は自宅の庭にメジロが巣を作り、子育てや巣立ちの様子を写真に収めることができました。

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所  
震災復興・放射性物質研究拠点長

篠宮 佳樹 (しのみや よしき) さん

◇プロフィール

東京農工大学農学部林学科で森林科学を学びました。森林における窒素の動きを明らかにする研究をして、「四万十川上流部における物質流出特性」という論文で博士号を取得しました。その後、作業路を作り間伐した時に溪流から出ていく養分を測る仕事をしました。震災後は、放射性物質が森林からどれくらい出ていくのかを調べています。

●趣味・好きなこと

旅行や鉄道が好きで、全ての都道府県に行ったことがあります。また自然が好きで、釣り、写真、テニス、山歩き、読書も好き。今は自宅の小さな庭で枝豆を育てるのにはまっています。



## 「福島<sup>しゅうかく</sup>の森のハカセになろう！」 「森のめぐみ なめこ収穫」

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所

きのこ・森林微生物研究領域 主任研究員

小松 雅史 (こまつ まさぶみ) さん

### ◇プロフィール

大学では樹木の病気に興味があり、「マツ材線虫病」という日本中のマツを枯らしてしまう病気や、「サクラてんぐ巣病」というサクラの枝がほうき状になって花が咲かなくなる病気のメカニズムを調べる研究をしました。震災後は野生きのこや樹木について、放射性物質の吸収に影響する要因を調べる研究を行っています。特に種類や環境による濃度の違いに興味があります。

#### ●趣味・好きなこと

最近<sup>さいきん</sup>はコロナ禍で家族だけでできる遊びはないか、ということで家族キャンプを始めました。バーベキューでお肉を美味しく焼く技術に興味があります。

## 「森と木に親しもう」

田人林業研究会 (福島県いわき市)

緑川 平隆 (みどりかわ ひらたか) さん

### ◇プロフィール

東京農業大学農学部林学科 (当時) を卒業し、1993 年から実家の林業・農業を父の指導のもと始め、地域と山を守るべく、ひざの痛みと闘いながら毎日頑張っています。田人林業研究会では、いわき市内の小、中学生を対象にして木工の指導や林業体験などを行っています。

#### ●趣味・好きなこと

ただ今、剣道 7 段取得に挑戦中。

田人林業研究会 (福島県いわき市)

下條 真輝 (しもじょう まさき) さん

### ◇プロフィール

2019 年に東京からいわき市田人町へ子どもの自然体験活動を行うために移住しました。その年の台風 19 号の猛威を目の当たりにして、山を守らなければ遊べる場もなくなってしまうと感じ、翌年自伐型林業の実習に参加、田人林業研究会に入会しました。遊びをとおして自然を大切に、森を守る活動を行っていく予定です。

#### ●趣味・好きなこと

好きな木はクヌギ。キャンプ、焚き火、読書、アニメが好きです。

## 【全体司会】

2020 ミス日本みどりの女神（東京都）

井戸川 百花（いどがわ ももか）さん

### ◇プロフィール

昨年1年間、みどりの女神として福島県をはじめ全国各地の森林や林業に携わる現場の方々の努力や工夫をみてきました。コロナ禍の自粛生活の中で自宅でしいたけ菌床栽培にチャレンジ！料理が大好きな私は、大きく育っていくきのこを眺めながら美味しいレシピを考えるのが楽しかったです。

### ●趣味・好きなこと

歌が大好きで、昨年は森の中でコンサートも行いました。森はきのこや木材などの恵みはもちろん、森林ウォーキングや森林浴で癒やしの時間を過ごすのにもぴったりですね♪

※「ミス日本みどりの女神」は、未来に繋がる豊かな緑を守り育ててきた取り組みや、生活に根ざした日本の木の文化を尊び、みどりや木とのふれあいや活用を通じて、みどりと木への親しみを広める役割を担っています。